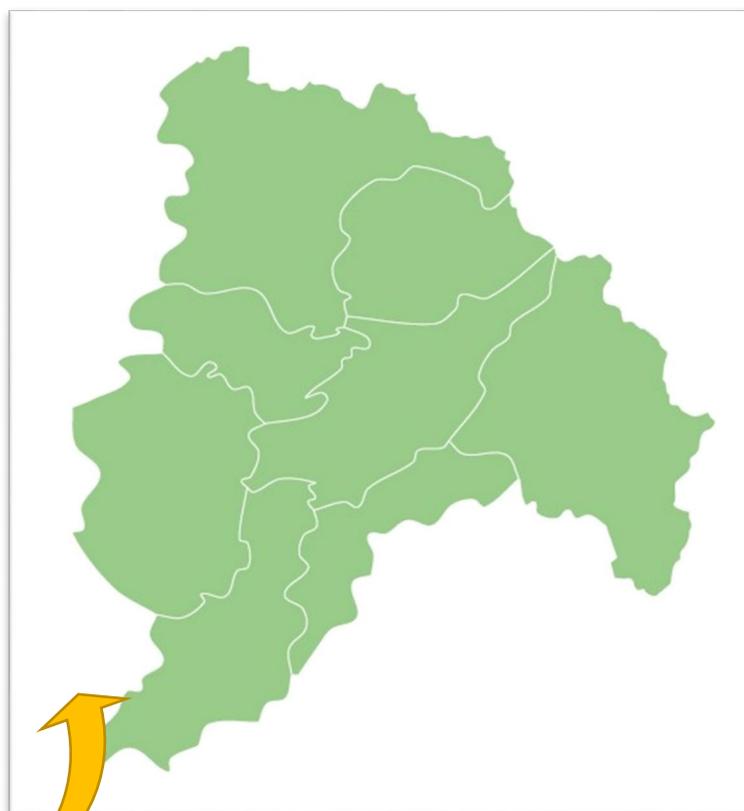


令和5年度
基盤共通教育集中講義

フィールドラーニング ー共生の森もがみ プログラム案内

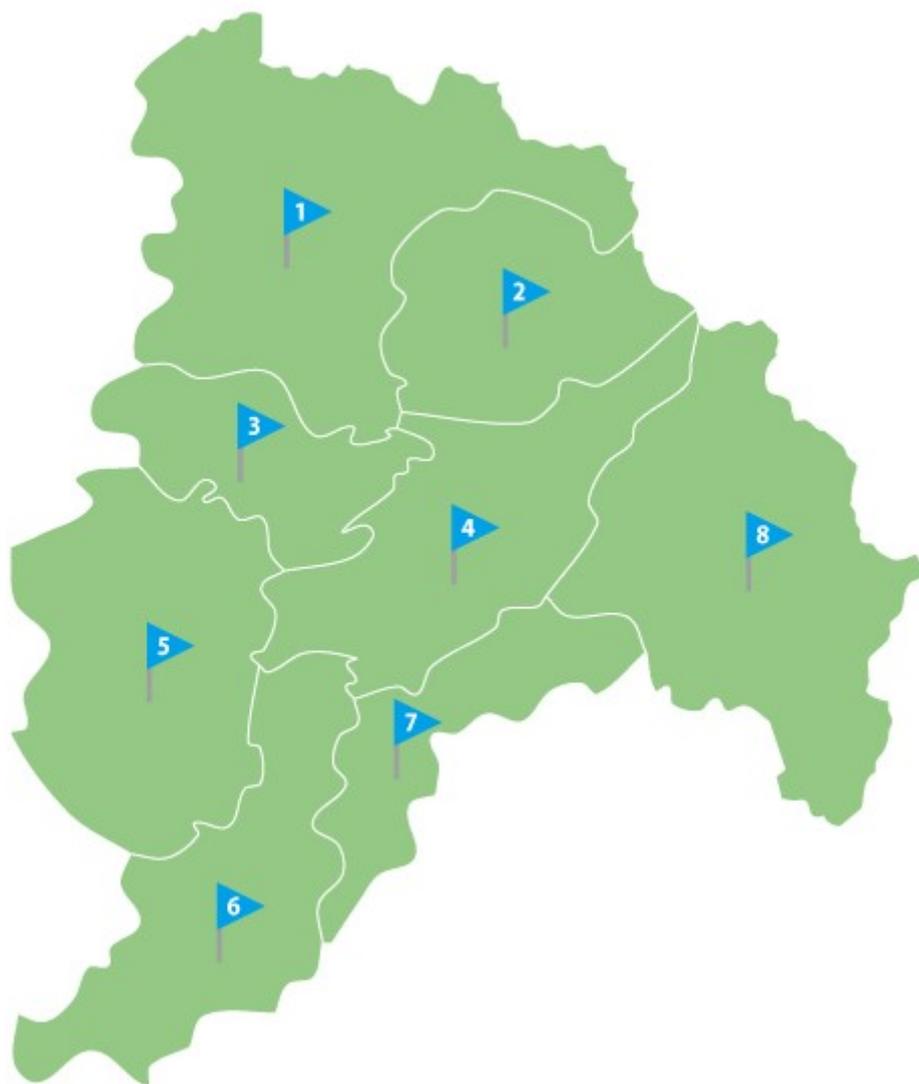


Q 最上広域圏8市町村の場所と名前を当ててみよう
→答えは表紙の裏へ！

エリアキャンパスもがみマスコット ヤム君



最上広域圏の場所と名前みんな覚えてね！！



1. 真室川町
2. 金山町
3. 鮭川村
4. 新庄市
5. 戸沢村
6. 大蔵村
7. 舟形町
8. 最上町

目 次

◇授業計画（シラバス）	2
①新庄市	4
②金山町	6
③最上町	8
④舟形町	10
⑤真室川町	12
⑥大蔵村	14
⑦鮭川村	16
⑧戸沢村	18

授 業 計 画 (シ ラ バ ス)

■授業科目名： 前期・・・フィールドラーニングー共生の森もがみ（山形から考える）
 ■担当教員：阿部宇洋、橋爪孝夫、菊田尚人 ■担当教員の所属：学士課程基盤共通教育機構、地域教育文化学部
 ■開講学年：1年、2年、3年、4年 ■開講時期：前期 ■単位数：2単位 ■開講形態：講義

～・・・授業概要～・・・

◎テーマ
 自然豊かな山形県最上地域でのフィールドラーニングを通して、地域の文化や歴史、自然、環境等だけでなく、過疎化、少子高齢化等の現代日本が直面する諸問題を地域の人たちと共に学び、実践的な視点から知識を獲得し、山形から日本、世界及び過去から、現在、未来の空間及び時間軸で現象を把握する力を養う。

- ◎到達目標
 この講義を履修した学生は、
- 1) 地域から与えられた課題を発見できる。【知識・理解】
 - 2) 地域で発見した課題を探求することができる。【知識・理解】
 - 3) 課題を議論することで、コミュニケーションできる。【態度・習慣】
 - 4) プレゼンテーションを行うことができる。【技能】
 - 5) 行動力、社会性の基礎的な力を身につけることができる。【態度・習慣】

◎キーワード
 山形、エリアキャンパスもがみ、地域社会、プレゼンテーションスキル、学生主体型授業
 ～・・・授業計画～・・・

◎授業の方法
 この授業は、各自が以下のプログラム(①～⑧)から1つを選択して受講する。受講の流れは以下のとおり。

- 1) オリエンテーション
- 2) 事前学習 (WebClass)
- 3) 【1泊2日フィールドラーニング (1回目)】
- 4) 中間学習 (WebClass)
- 5) 【1泊2日フィールドラーニング (2回目)】
- 6) 最終レポート (WebClass)
- 7) 活動報告会に向けた説明会・練習、活動報告ポスター作成
- 8) 活動報告会での発表

前期

プログラムテーマ	開催地	1回目	2回目
①万場町商店街PV作り ～SNSを活用したまちづくり～	新庄市	6月3・4日	6月10・11日
②かねやま旅情	金山町	5月13・14日	6月3・4日
③最上町の木を使った楽器を全世界に広めよう	最上町	6月10・11日	7月8・9日
④里地里山の再生 I	舟形町	5月20・21日	5月27・28日
⑤子どもの自然体験支援講座	真室川町	6月10・11日	7月1・2日
⑥知られざる大蔵村の歴史と文化、郷土の食を求めて	大蔵村	5月27・28日	6月3・4日
⑦里山の自然を調べよう	鮭川村	5月20・21日	6月17・18日
⑧里山保全とSDGsを学ぶ	戸沢村	5月13・14日	6月10・11日

～・・・授業計画～・・・

①説明会 (各プログラムの紹介・プログラム選択希望調査)
 4月4日 (火) ～4月11日 (火) 17:00 WebClassで実施します
 ※4月10日 (月) 16:00～ 121教室にて説明会を行います。興味のある方は参加してみてください。

②抽選
 4月12日 (水) 12:00 掲示板・WebClassで発表します

③履修登録
 4月10日 (月) ～4月13日 (木) 17:00 学務情報システムで各自履修登録

④オリエンテーション（班顔合わせ、役割決め、フィールドラーニングの心構えについて）

4月21日（金）16:30～18:00

基盤2号館 222教室

⑤各プログラム毎にフィールドラーニング

5月13日（土）～7月9日（日）

⑥活動報告会

7月28日（金）16:30～18:00

基盤2号館 222教室

学習の方法

◎受講のあり方

- 1) 安全第一を心がけ、積極的に活動に参加してください。
 - 2) 専門分野の方法論や数値的なデータだけではなく、フィールドラーニング（あるく・みる・きく）で集めたデータをもとに考えるよう心がけてください。「現場で考える」「体で考える」（もちろん頭も使います）ことが合言葉！そして、自分の想像力を大事にしてください。
- ・学部の行事や、サークル活動（大会）と予定がバッティングしないように気をつけてください。必ず確認すること。
 - ・メールでのお知らせや掲示板での情報がありますので、必ず確認してください。

◎授業時間外学習へのアドバイス

- (1) オリエンテーションで配布される「しおり」を熟読し、内容を理解して授業に臨んでください。
- (2) オリエンテーションでの詳細説明に基づき①事前学習、②中間学習、③最終レポートに取り組んでください。
また、フィールドラーニング中はこまめに記録ノートを作成するよう努めてください。
- (3) フィールドラーニング終了後、活動報告会に向けて準備を進めてください。方法については説明会を開催し、発表指導を2回行います。

成績の評価

◎基準

- (1) 地域での活動により課題を発見し、探求により深め、活動報告会の発表により他者に伝える事ができたかどうかを評価の基準とします。
- (2) 一連のグループ学習の中でコミュニケーション能力や主体的学習力、社会性などを発揮できる事を評価の基準とします。
- (3) 現地講師による活動評価、受講態度や、指示に対する達成度を数値化しそれを参考に教員が相対的に評価を実施します。

◎方法

前提として、現地活動にはすべて参加していること、また最終レポート提出が基本条件。

- フィールドラーニング活動への参加度40%
- 活動報告会での発表の完成度（ポスター含む）30%
- 現地講師による活動評価20%
- 受講生による相互評価10%

テキスト・参考書

参考書：オリエンテーションで配布する「しおり」を参照するほか、活動中に地域で配布される資料を活用してください。

その他

◎学生のみなさんへのメッセージ

フィールドラーニングとは、山形大学オリジナルの学術用語で、学部専門で学ぶであろう、フィールドワークの入門編として設計されました。フィールドワークでは全て、みずからの関心で調査する事に対して、フィールドラーニングとは、提示されたプログラムを通して、課題発見などを行なう教育プログラムになっています。

最上地域は、学生諸君を温かく迎え入れてくれるでしょう。是非、もがみを見て、聞いて、感じて（味わって）、「共生の森」のパワーを体全体で吸収してきてください。

この講義をきっかけに、多くの学生が最上地域での課外活動に参加してきました。教員を目指す学生や、地域でのボランティア、地域活動を体験したい学生にはお勧めです。

本授業は宿泊や実技体験を伴いますので、参加費が必要となります。（詳細は、プログラム説明会の際に説明します。）

◎オフィス・アワー

原則としてWebclassのメッセージで質問を受け付けますが、オフィスアワーとして「阿部研究室」（基盤教育1号館2階東側）において、予約制で受け付けます。会議や出張等で不在にすることもあるため、確実に面談したい場合は事前にWebclassのメッセージで予約をお願いします。3人の教員が担当していますが、基本的には阿部へ連絡をください。

●目的・概要

現代の商店街には空きスペースの活用、経営者の高齢化等様々な課題が取り巻いています。一方で商店街にはスーパーマーケットやショッピングモールにはない魅力を数多く持っています。

今回活動場所となるのは新庄市内では比較的商店が集まっているエリアである万場町。皆さんには万場町商店街にある店舗「のくらし」で行っている「まちなか寺子屋のくらし」への参加や商店街の人々との交流といった体験をもとに万場町のプロモーションビデオを作成してもらいます。

地域の人達には少し馴染みが薄い YouTube や TikTok といった SNS を利用した商店街の課題解決や情報の発信などについて考えるプログラムを開催します。

<訪問1回目 令和5年6月3日・4日>

◎活動内容

6月3日

【午前】

- (1) オリエンテーション
- (2) モグラジオについて説明

※モグラジオ…講師の吉野氏が中心となって最上地域の人や情報について YouTube で発信しているアーカイブ式のラジオ番組です。学生にチャンネル開設の理由などについて説明し、これから作成する動画の参考として紹介します。

【午後】

- (3) 万場町商店街散策・商店街の人達と交流

6月4日

1日目の活動を踏まえ各自でテーマを決めて商店街やお店の紹介動画を作成。グループ内で発表し9日・10日の動画作成において良かった点や改善点などをまとめる。

<訪問2回目 令和5年6月10日・11日>

◎活動内容

6月10日

【午前】

「のくらし」を利用して行っている事業「まちなか寺子屋のくらし」について説明・参加

※「まちなか寺子屋のくらし」…子どもの居場所づくりの一環として学校や職場、家のほかにも気軽に立ち寄れる場所として「のくらし」を解放し、地域の子どもと大人の交流を行っています。

【午後】

これまでの活動を踏まえて11日午前中までに全員で協力して万場町商店街のPVを作成してもらう。作成において商店街や寺子屋で動画に使う素材を集める。

6月11日

【午前】

動画を完成させて発表・YouTube にアップロード

【午後】

活動について振り返り



●講師

- ・(一社) 最上のくらし舎 吉野 優美 氏
- ・「まちなか寺子屋のくらし」 鈴木 直 氏

●受講定員 (最小開講人数)

5人 (2人)

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 1,030円+シーツ代 220円
+交通費 2,340円 (往復) + α (食事代)

訪問2回目 宿泊料 1,030円+シーツ代 220円
+交通費 2,340円 (往復) + α (食事代)

合計 7,180円+ α

昨年度新庄市プログラム受講生の感想

最初に万場町の商店街を回ったときは、見た目ではお店か住宅か、また、営業しているかどうかが分からず、本当に商店街なのかと思ったほどだった。しかし、今回のフィールドラニングを通して、万場町の住民の皆さんの繋がりやの強さに触れ、商店街復興の可能性を肌で感じる事ができた。

商店街の一番の魅力は、そこで繰り広げられる交流(会話)にあると考える。スーパーに行けば、そこにはマニュアル化された世界があり、店員や客との会話は殆どない。スーパーは商品を購入するための場所であり、店員との会話は、あったとしても事務的なものに限られてしまう。だが、商店街では、型にはまらない独自の世界が繰り広げられる。会話は、世間話や近状報告なども含め、気兼ねなく行われる。また、商店街には専門店が多いことも魅力の一つだ。店員は、販売する商品のことを熟知しているため、客は自分のニーズに合った商品を気軽に尋ねられるし、店員から専門店ならではの情報を教えてもらうなど、お互いに気持ちの良い空間が商店街にはある。(Aさん)

よろず市は、万場町の発展に不可欠なものだと感じた。予想していた以上に宣伝効果があり、親子連れのお客さんを中心にお客さんが多く来ていた。それぞれのお客さんの店への滞在時間が長いことが印象的だった。商店街の空間そのものを楽しんでいるような気がして、また、商店街にとっては外に開くきっかけになったため、よい企画だったと思う。今後、商店街はよろず市を開くことにより生きがい生まれ、よろず市によって商店街に客足が戻るという相互作用が生まれるだろう。(Sさん)

私が今回の活動で街を歩いて感じた感想としては、万場町近隣の店はどれも用品がある程度特化しており、スーパーなどとは異なり、店ごとの個性が存在することです。街をグループの皆さんと散策した際、日本国内でも有数の銃砲火薬店があったり、魚屋の壁面いっぱいに似顔絵が張られていたりなどが見られるほか、個人店舗のために自由な品ぞろえがされている店が多いと思いました。(Sさん)



プログラムへの参加を通して商店街に残っている課題やインターネットなどでは情報を得にくい商店などについて考えるきっかけにもなればと考えています。特にまちづくりや動画を利用した情報の発信などについて興味のある方は是非参加してみてください。

●目的・概要

○今回の金山旅の魅力を SNS で拡散してもらうこと。

○新たな町旅の提案してもらうこと。～泊まる・食べる・体験する・買う～

(金山町の観光資源の PR と観光人口の増加につなげる

役割を担ってもらう。)



<訪問1回目 令和5年5月13日・14日>

◎活動内容

1日目

- 09:45 新庄駅集合(町バス移動)
- 10:40 遊学の森着
- 11:00 オリエンテーリング、春の森をめぐる
- 13:00 昼食(山菜料理教室)
- 14:00 水辺の観察会
- 15:30 振り返り
- 16:00 ホテルへ移動(町バス移動)

☆有屋地域の旅提案と有屋地域の旅マップの製作。
 ※16:00~20:00の時間帯を、旅の提案に必要なプレゼン(旅マップ)のための自主活動の場とする。町旅の提案するにあたりキーマンになりそうな団体や個人を調査し、タイムスケジュールやテーマなど事前にお知らせいただければ交流及び研修の場を提供します。

2日目

- 08:40 ホテル出発
- 09:00 谷口地区公民館着
谷口歴史講座
- 12:00 昼食(町内飲食店)
- 13:00 谷口銀山見学とボランティア清掃
- 14:30 遊学の森へ移動
- 15:00 振り返り(町バス移動)
- 16:00 新庄駅解散

<訪問2回目 令和5年6月3日・4日>

◎活動内容

1日目

- 09:45 新庄駅集合(町バス移動)
- 10:40 遊学の森着
- 10:50 木エクラフト教室
- 15:00 終了、振り返り
- 15:30 ホテルへ移動(町バス移動)

※16:00~20:00の時間帯を、旅の提案(旅マップ)に必要なプレゼンのための自主活動の場とする。町旅の提案するにあたりキーマンになりそうな団体や個人を調査し、タイムスケジュールやテーマなど事前にお知らせいただければ交流及び研修の場を提供します。

2日目

- 08:45 ホテルパル集合(町バス移動)
- 09:00 遊学の森マルシェ(9:00~14:00)
- 13:00 スポーツGOMI拾い(13:00~14:00)
- 14:00 振り返り※このタイミングで旅の提案の発表と旅マップの提出をしてもらいます。未完成の場合は持ち帰り、後日に発表してもらいます。
- 15:20 遊学の森出発
- 16:00 新庄駅解散

●講師

遊学の森 三上重幸氏
谷口銀山保存会 井上敬助氏

●受講定員（最小開講人数）

8人（5人）

●費用の目安

※変更がある可能性があります。

訪問1回目 昼食代 1,000円 + 宿泊料 4,500円
+ 交通費 2,340円（往復） + α （朝食代、夕食代など）

訪問2回目 昼食代 1,000円 + 宿泊料 4,500円
+ 交通費 2,340円（往復） + α （朝食代、夕食代など）

合計 15,680円 + α

昨年度金山町プログラム受講生の感想-----

一回目のフィールドラーニングでは、遊学の森での蕎麦打ち体験、自然講和、木エクラフトに加え、谷口銀山の講和とボランティア、坑道の探検などを行うことができた。金山町に行くのは初めてだったため、遊学の森や谷口銀山といった観光地は知らなかったが、遊学の森での自然を生かしたイベントと、谷口銀山での普段体験できない坑道探索を楽しむことができた。特に蕎麦打ち体験は難しかったが、地元の方が丁寧に手本を見せて教えてくれたので、初めてだったがなんとか作ることができ、とてもいい経験になったと思う。

二回目のフィールドラーニングでは、遊学の森での二回目の蕎麦打ち体験に加え、ふれあいの森の散策、森のクイズラリー、木育×食育フェスを体験することができた。小学生たちの案内やお店の手伝いなどを通じて、ふれあいの森の雄大さ、地域の人たちの結びつき、そして金山町の自然の豊かさを直に感じることもできたのが、今回の最も大きな収穫だと感じた。（Oさん）

2回の活動を通して、自分自身が直接現地に出向くことの大切さを知った。ネットなどで調べたことや人から聞いた話だけでは感じなかった金山の魅力が今回のフィールドラーニングを通して気づくことができた。実際に体感しないと分からない金山の魅力を私たちが提案する旅の計画を通して発信していきたいと思った（Uさん）

私は、もがみを通して、金山町の自然の美しさ・豊かさ、地域の人々の温かさに触れることができた。森林セラピーという言葉があるように、森林には癒しの効果があり、ストレス解消にも効果があると言われている。金山町には疲れた心を癒し、活力を与えてくれる力があると感じた。

これから金山町の観光人口を増やすために旅行プランを考えるうえで課題となってくるのは、第一に交通の便が悪いことだ。この課題に対処するために、旅行プランのターゲットを、一般的に車を所有している家族にするべきだと考える。そうすることで、バスなどを手配することなく交通手段を確保することができるからだ。また、自然が多い特徴を活かして子どもに自然教育をさせたい親向けの旅行プランを考えることも効果があるのではないかと考える。それに加え、近年スマホの使用が増えている子どもたちにスマホ立ちをさせるのにとってもいい環境が整っていると感じた。デジタルデトックスをしながら、自然に親しむことができる環境が整っている場所は金山町ならではのと思うので、これらを組み合わせたプランを考えていきたい。（Kさん）

金山町ならではの体験活動や銀山跡の見学などを行います！
夜は温泉に入ってホテルに宿泊です！
観光気分を味わいながら旅の提案を考えていただくコースです！



●目的・概要

○最上町で活動する団体「ベルフォレ」は、最上町の木材を活用した楽器を制作し、演奏活動を行う団体です。毎年、木と音の会代表泉谷氏を講師に迎え、町内のイベントなどで共に行っています。今後の活動テーマとしては、

- ①「森から生まれた楽器」を町の子供と大人が楽しむ場所をつくる。
- ②その楽しみ方を発信して、町外、国外で同じように楽しむ人を増やす。
- ③最上町を拠点として、町外、国外との交流を促進する。

この3つを軸に進めていきたいと考えています。そこで学生には、実際に楽器に触れ、演奏を楽しんでいただきながら、それぞれが感じたことや、本活動の新たな可能性、楽器の楽しみ方や楽しむ場所づくりなどを最上町に提案して頂きたいと考えています。



<訪問1回目 令和5年6月10日・11日>

◎活動内容

- プログラム説明（担当者、講師から）
- 楽器演奏
- 楽器作成
- ワークショップ

<訪問1回目 令和5年7月8日・9日>

◎活動内容

- 楽器演奏
- 楽器作成
- ワークショップ

●講師

木と音の会 代表 泉谷 貴彦 氏

●受講定員（最小開講人数）

8人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 6,650円 + 実習経費 2,000円
+ 交通費 2,340円（往復）

訪問2回目 宿泊料 6,650円 + 実習経費 2,000円
+ 交通費 2,340円（往復）

合計 21,980円



昨年度最上町プログラム受講生の感想

今回私たちは最上町を訪れ、講師の泉谷先生から木でできた楽器の演奏、町民との交流について実際に体験させていただきました。泉谷先生から、楽器が生まれるまでの経緯や活動のコンセプトをお聞きし、さらに自分たちで演奏することで、木の楽器の温かみを感じることができました。この楽器での演奏は技術など関係なく、純粹に音楽を楽しむことができました。

(Aさん)



これらの楽器をより親しみやすくするために、私たちは楽器を「もがっき」と名付け、様々な解決案を考えました。まずは、ストリートライブを開催するという事です。講師の泉谷先生の講義から、音楽を「楽しむ」ことが大切であるということ学びました。子どもや音楽が得意でない人でも参加できるように、音楽そのもののハードルを下げ、誰でも楽しめるようにするという事です。私たちが考えたストリートライブでは、飛び入り参加のようなかたちで、簡単なパートを演奏してもらったり、太鼓やダンスや歌で自由に楽しんでもらったりして、その場で一緒に音楽を楽しむことを目指します。このストリートライブを最上町の前森高原で開催し、地元の人たちにももがっきについて興味を持ってほしいと思っています。また、ストリートライブの様子をYouTubeなどにあげ、楽しく交流している様子を全世界にアピールできたら良いと考えました。

(Sさん)

私たちはこの最上町で人々が音楽を通して分け隔てなく自由に楽しく演奏するという方法を突き詰めることが大切なことであるとわかり、そのためにはどうしたら音楽の才能に関わらず全員が楽しむことができるかを考えました。例えば、誰もが知っている曲を使うことや音楽の腕によって楽譜や演奏するパートを変えることです。つまり、音楽への心のハードルを下げ、失敗や間違いをしても許されるような雰囲気を作りそして演奏できた部分に重きを置くということです。また泉谷先生による音楽についての講義によって、「練習なしでできる音楽」「短い時間でできる音楽」「長い時間をかけてできる音楽」と三種類に分けて地域住民や老若男女が和気藹々と自分の演奏ができることに焦点を当てるという考え方を教わり、私たち自らが楽器を演奏することでそれを実感し最上町の活性化につながれると気づきました。(Sさん)



木で作った楽器を弾く体験はあまりできないことなのでぜひ体験していただきたいです。

●目的・概要

農村が抱える過疎化対策を地域自らが主体となって取り組む地域活性化策を習得すること目的とする。

荒廃した農地等の再生を共に活動することによって、受講者自らが考案する農村の再生策を提言としてまとめることを目標とする。

○地域学講座（堀内地域の将来ビジョン）

○食と農の体験活動



●講師

堀内ファーム 大山 邦博、伊藤 千代喜

●受講定員（最小開講人数）

10人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代 6,000円程度
+交通費 1,980円（往復）

訪問2回目 宿泊料・食事代 6,000円程度
+交通費 1,980円（往復）

合計 1,5960円

<訪問1回目 令和5年5月20日・22日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

<訪問2回目 令和5年5月27日・28日>

◎活動内容

野菜の播種、定植活動

昨年度舟形町プログラム受講生の感想

私たちが訪れた舟形町は、昭和 29 年に堀内村と舟形村が合併してできた町で、周りが緑に囲まれたのどかな場所だ。

定植活動を通して、身をもって農業の大変さを学んだ。これは定植が大変だったという安直な意味ではない。「作業の進捗や作物の出来が天候に左右されること」や「現場はやりたいことと収益問題の板挟みになっており、ジレンマを抱えていること」が大変という意味だ。「機械やハウスを導入したいが、収益が飛躍的には上がらず結局赤字になってしまう」というのがジレンマの例として挙げられる。確実に収益を上げるためには何が必要で、低コストでは何ができるのかを考えてみたいと思った。(Mさん)

農業の難しさについても学んだ。2回目の現地活動で、1日目は前日までの雨の影響で防草シートを敷く活動ができなかった。また、2日目も風が強く、シートを敷くのに工夫が必要だった。講師の方が農業はタイミングが大事だとおっしゃっていて、人為の及ばない天候に左右されるのは本当に大変であると感じた。さらに、農作業従事者不足を補うため、積極的にIT化を進めたい一方で、収益の確保の観点から導入が難しいという状況を教わった。他方で、私たちが普段食べている農作物は、生産者の方々のたくさんの苦勞があって作られているということを知り、改めてありがたみを感じた。(Aさん)

一部の作業を機械化することで農業の効率を上げ、農家さんの体への負担も軽減することができる。堀内ファームさんも土に埋め込んだ配管に水を流しきゅうりに水をやる装置を今年から導入し、作業効率を上げる工夫をされていた。きゅうりを育てる上で大変な作業は消毒の作業だとおっしゃっていたので、私はドローンを用い空中からミストで散布するとよいと考えた。ITの機械は初期投資や維持費が莫大にかかってしまうが、ドローンなら維持費がかからず操作も比較的覚えやすいので、すぐに取り入れられる機械化だと思う。

舟形町のフィールドワークを通して少子高齢化の実態や農家数が減少しているという現状を身をもって体験することができた。舟形町は自然・田園風景がとても綺麗だ。この舟形町の景色がなくなってしまうことは絶対にあってはならないと思う。私のレポートを読んでもらった人が少しでも舟形町について興味を持ち、地方の農業についての理解を深めてくれたら本望だ。今後も舟形町との交流を続けていきたい。(Iさん)

舟形町の堀内地域の人口は平成 27 年の時点で 724 人。そのうち、0~14 歳は 79 人、15~64 歳は 605 人、65 歳以上は 398 人となり、少子高齢化により他地域より減少が著しく、集落が消滅する危機となっている。そのため、農業の後継者が不足し、耕作放棄地が増えている。任意団体から法人化することで、農地の買い取り、農地を売るなどのことができるようになる。そのため、法人化し、耕作放棄地を減らすためにも農地を管理することが大切であると思った。(Nさん)



農業体験を通して、将来、社会で役立つスキルを身に付けることができます。
参加者には、団体が生産したお米(はえぬき)をプレゼントします。

●目的

子どもの自然体験活動の支援に携わり、体験活動を通じた子どもの変容に気付くことで、自然体験活動の意義を感じたり、よりよい支援のあり方を考えたりする。

●概要

<1回目>

1日目：①FLによる「めんごキャンプ」プログラム体験と、支援のあり方のシミュレーション

②現代の子どもの課題と、自然体験活動の意義を学ぶ研修

2日目：幼児・低学年対象「めんごキャンプ」のスタッフとして子どもの体験活動の支援を行い、ふり返り、よりよい支援のあり方を考える。

<2回目>

1回目の経験をもとに、小3・4年対象「わんぱく探検隊」のスタッフとして、子どもの体験活動の支援を行う。

講座全体を通して、子どもへの支援を通して得た気付きをもとに、自然体験活動の意義やよりよい支援のあり方についての考えをまとめる。

<訪問1回目 令和5年6月10日・11日>

◎活動内容

1日目

・オリエンテーション、ワークショップ

①真室川町の紹介

②ワークショップ

「自然体験・学び・支援」

③自然体験実習

2日目

企画事業「めんごキャンプ」活動支援

・幼児～小学2年生対象

・班付きスタッフ、バックアップスタッフ

・野遊び

・トレッキング など

<訪問2回目 令和5年7月1日・2日>

◎活動内容

企画事業「わんぱく探検隊」活動支援

・小学3・4年生対象

・班付きスタッフ、バックアップスタッフ

・野遊び

・野外ビバーク泊

・トレッキング など

・フィールドラーニングのふりかえりと共有

●講師

山形県神室少年自然の家職員

●受講定員（最小開講人数） 15人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

8,000円（全日程分）＋交通費2,340円（往復）×2回
（飲食料費、保険代、活動費、宿泊費）

合計 12,680円



昨年度真室川町プログラム受講生の感想-----

私は今回、もがみの集中講義で真室川町に訪れた。真室川町は山形県の北部に位置する町で自然にあふれた町だ。私たちはその真室川で1泊2日の活動を2回行った。1回目の活動は6月11日、12日に行われた。1回目の大きな目的は、2日目、12日に4歳~7歳の子供を対象に行われる「めんごキャンプ」の活動支援だ。この活動は親子での参加だが、活動開始早々に子供と親はお別れをし、それぞれ別の活動をする。めんごキャンプのねらいは「集団活動や自然体験活動を通じて、幼児が自立する力や仲間とかかわる力を育む。また、親が自然体験活動や子育てについて考えるきっかけにする。」とされており、これを達成するために我々も行動した。めんごキャンプを次の日に控えた11日は、当日活動する場所を事前に訪れ危険な場所や注意が必要な場所を確認した。また打ち合わせの際、自然の家の職員の方に、当日は「子供を見守る」という立場でサポートしてほしいというお話をされた。先述した通りこの事業のねらいは子供の自立する力や仲間とかかわる力を育むことであるため、多少の困難も彼ら自身の力で乗り越えさせてほしいという意図があつたことだった。当日は、それぞれ担当の子供につき活動を見守った。私の担当の子供は小学1年生の女の子だった。はじめは人見知りなのか全く話しかけてくれなかったが、終わる頃には打ち解けることができた。山の探検や川遊びを通して私は子供の成長を感じた。一概に子供といっても性格は十人十色で、自己中心的な子もいれば、意思表示ができずに固まってしまう子もいた。しかし、自己中心的だった子が、虫が取れない子のために自分がとった虫をあげたり、さっきまで一人でいた子が友達と手をつないでいたりなど、活動を通して、協調性を学んでいた。私は「めんごキャンプ」で自然の力は子供を大きく成長させてくれるということを学べた。(Sさん)

この2回の自然体験活動を通して、自然には人の数だけ遊び方や楽しみ方があり、ネット社会が進む現代において室内では伸ばすことができない生きる力を自然の中で身につけることができるのだと感じた。子どもたちは自然という遊び方が無限にある環境で「あれやりたい!」「あっちに行ってみよう!」などと、周りの友だちに流されることなく自分のやりたいことへ意欲をもって興味が向くままに行動していた。さらに、さまざまな発想を膨らませ、ときには友達と協力して主体的に活動していた。子どもたちにはたくさんの好奇心や発想の引き出しがあり、たくさんの可能性を秘めているのだと感じた。そして、その可能性を引き出す力が自然にはあるのだと感じた。このフィールドラーニングで自然や子どもたちの偉大な力を発見することができ、とても貴重な体験となった。(Hさん)



真室川町の講座は、真室川町教育委員会と山形県神室少年自然の家が連携して行います。自然の家が主体となって運営し、真室川町教育委員会はバスでの送迎などのサポートを行います。講座の内容は、子どもの自然体験活動支援について考えるというものです。学生の皆さんには、子どもたちが自然の中で体験活動を行う様子を見守ったり、子どもたちの体験活動を支援したりしていただきます。そのことを通して、現代の子どもを取り巻く課題や、子どもが自然体験活動を行う意義、よりよい支援の仕方等について考えるきっかけになることを目指しています。自然体験活動をするための環境が整った真室川町、そこにある神室少年自然の家でいきいきと学ぶ子どもの姿や、自然体験活動を通して変容していく子どもの姿を実際に目の前で見て、感じていただけたらうれしく思います。

●目的・概要

大蔵村の人々は、歴史・文化・産業といった地域の伝統を共有することによって、共同体としての意識・誇りをもって暮らしてきました。近年は、少子高齢化とともに、世間の多様化の波が大蔵村にも押し寄せています。働き方・生活様式・人との関わり方などが変化し、伝統を受け継ぎ大蔵村を元気ある村として維持していくため、地域の人々は様々な取り組みを行っています。村の取り組みの工夫と苦悩、課題について体験を通して学び、考えることがこのプログラムの目的です。

温泉・食・工芸・農業・芸能を肌で感じ、実際に体験し、楽しみ、大蔵村を全身で学べるプログラムとなっております。具体的には、以下の取り組みを中心に学び考えます。

- 四ヶ村の棚田 ○食文化の保存活動「笹巻作り」○県内最古の酒造「(株) 小屋酒造」
- 若者グループの産業・地域活性化活動 「トマト」
- 伝統芸能「合海田植え踊り」保存活動 ○村の歴史と伝統文化の継承
- 肘折温泉「現代版湯治スタイル」

<訪問1回目 令和5年5月27日・28日>

◎活動内容

◎大蔵村の伝統と歴史を学ぶ

- ・散策：大蔵村肘折地区温泉街
- ・見学：「肘折こけし」制作
- ・体験：オリジナルこけし作成

◎四ヶ村の棚田保存活動

- ・体験：棚田田植え
- ・講義：四ヶ村棚田保存活動

◎合海田植え踊りの保存活動

- ・体験：伝統芸能「合海田植え踊り」

◎肘折温泉の湯治を体験

- ・体験：肘折の湯治 「温泉入浴」

<訪問2回目 令和5年6月3日・4日>

◎活動内容

◎若者グループの産業・地域活性化

- ・対談：大蔵村若者グループ「メンズ農業」
- ・体験：大蔵トマト栽培

◎大蔵村の伝統と歴史を学ぶ

- ・見学：(株) 小屋酒造

◎食文化の保存活動

- ・体験：笹巻作り

◎合海田植え踊りの保存活動

- ・見学：伝統芸能「合海田植え踊り」

●講師 地域住民の方々

●受講定員（最小開講人数） 10人（5人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料・食事代・温泉入浴料 9,000円
+交通費 1,980円（往復）

訪問2回目 宿泊料・食事代・温泉入浴料 5,000円
+交通費 1,980円（往復）

合計 17,960円



昨年度大蔵村プログラム受講生の感想-----

大蔵村は山形県最上郡にある、自然に囲まれた人口3千人余りの村である。世界からも注目を浴びる素晴らしい伝統や食文化が多数あり、人々は自分の仕事に誇りと情熱を持っている。しかし、大蔵村では近年少子高齢化が加速しており、伝統や文化の存続が危ぶまれている。私は4日間のフィールドラニングを通して大蔵村について多く学んだが、知れば知るほど自分が村に魅かれていくのを感じた。もちろん多くの心ひかれる物事に触れたからという理由もあるが、それ以上に大蔵村の人々の、気さくさや優しさに魅力を感じたからかもしれない。そんな人々が一生懸命に守っている大蔵村の伝統・文化をどうしたら後世に伝えることができるのかを考えた。(Hさん)

合海田植え踊りを保存していく意義は、地域の人々のつながりの強化にあると私は考える。田植え踊りは合海地区にとって一大イベントとなっており、それに向けての準備などで特に近所のつながりが増える。さらにタウエーズの活動を行うことで、合海地区の同年代の子供のつながりが深くなることに加え、指導者層と子供たちのつながりも生まれる。実際に私は指導者の方たちとは年の離れた友達のようなつながりができていると感じる。このつながりは地域が明るくなり、地区へ帰ってくる人が増えるという効果があると考えられる。近所や年が離れた人同士のつながりを作ることによって地域内の会話が増える。さらに現在オンライン上で遊ぶ子供が増える中、深いつながりができているせいか、合海地区では子供たちが集まって外で遊んでいるのを頻りに目にする。このことによって住民や将来を担う子供たちに明るく楽しい地域だという印象を与えることができる。そのような印象を持って育った子供は郷土愛を持ち、合海に住むと決める若者が増えると私は考える。(Sさん)

稲作でも述べた大蔵村の地形による寒暖差や、水資源の豊富さはおいしいトマトの生産にも活かしている。「メンズ農業」とし、地域の農業を活性化させるための取組が行われているようだ。新規就農者への支援や、知識、技術の伝達、子供への魅力発信と食育など本当に多くの取組がなされていた。そのすべては地元のため、大蔵のため、と郷土を愛する気持ちから来るのだそう。地域との関連が希薄になっている現代でこのような気持ちはもっと多くの人々が持つべきだと思った。(Sさん)



大蔵村は全国屈指の豪雪地帯、かつ県内で最も人口が少ない村でありながら、村民の皆さんの元気・笑顔は県内随一です。是非、元気と伝統文化、数々の特産品を育てている大蔵村の空気と自然、人の暖かさに実際に触れて下さい。

このプログラムでは、地元で採れた山菜や米、蕎麦をふんだんに使った料理を味わうことができます。また、夜は秘湯折温泉を存分に満喫して頂き、充実した学習環境をご提供いたします！



●目的・概要

『地域の自然は地域で守る』をスローガンにしている「鮭川村自然保護委員会」さんから、里山の自然や環境保全等について教えてもらいます。絶滅危惧種等の希少な動植物が自生する里山で、自然観察や保全活動体験をとおして、生物多様性と地域の関わりについて考えます。



<訪問1回目 令和5年5月20日・21日>

◎活動内容

1日目

里山自然観察 等

2日目

里山自然観察 等

(1日目と2日目で違う山の中を歩いて観察を行います。)

※荒天等により、内容に変更が生じることがあります。

<訪問2回目 令和5年6月17日・18日>

◎活動内容

1日目

里山自然観察 等

(水路等の生物を調べます。)

2日目

自然環境保全活動 等

(湿原まつりに参加します。)

※荒天等により、内容に変更が生じることがあります。

●講師

鮭川村自然保護委員会 会長 高橋 満 氏 ほか

●受講定員 (最小開講人数)

5人 (3人)

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 7,000円+昼食代 700円×2
+交通費 2,340円 (往復)

訪問2回目 宿泊料 7,000円+昼食代 700円×2
+交通費 2,340円 (往復)

合計 21,480円+α (飲み物代等)



昨年度鮭川村プログラム受講生の感想-----

私が鮭川村のフィールドラーニングで、特に印象に残っているのは2回目の活動で主に行ったヨシ刈りだ。ヨシは湿原の希少な植物たちの成長を阻害するためそれを除去する必要がある。生えている希少な植物も刈らないよう踏まないよう注意しながら行い、腰をかがめる姿勢で作業するため体力の消耗が激しかった。だが、活動の合間の休憩での時間や終了後に食べるご飯の美味しさ、だんだんとヨシがなくなり湿原の植物たちの姿が少しずつ見えてくることにとってもやりがいを感じた。

この作業をしていて気づいたことは、私たち大学生を除くと若者の参加者が少ないということだ。また、主な活動を行った米地区では住人の数が少なく集落が無くなるのは時間の問題と矢口さんがおっしゃっていたことが印象に残っている。(Aさん)

環境保護と観光資源保全のためのバリアフリー化はとてもバランスをとるのが難しい活動だ。どちらが欠けてもいい結果につながることは少ないと私は考えている。大学生であり、専門の知識が薄い私が考えている解決策はベテランの方々から見ると費用の面なども含め欠点だらけである。しかし、このフィールドラーニングで様々なことを教えていただいた方々への恩返しとしてより良い環境造りを模索していきたい。(Hさん)

1回目のフィールドラーニングでは、鮭川村自然保護委員会の活動について教えていただきました。鮭川村の住民の方々が一体となって、ギフチョウを守っていきこうとしている姿勢を強く感じることができました。また、鮭川村に生息している植物をたくさん教えていただきました。保全活動をする上で、植物の名前や性質、鮭川村のどこに生えているか、などをたくさん下調べしていることが分かり、保全活動への熱意に感動しました。私が鮭川村でいろいろな経験をさせていただいて感じたのは、情報発信の難しさです。私自身、数ヶ月ほど前に山形に来たばかりで鮭川村を知らなかったのですが、山形市民の方でさえ鮭川村についてくわしく知らないという課題があるように感じました。実際に鮭川村を訪れて、学んで、こんなにも魅力がある素敵なものを持っているのに、あまり知られていないのはもったいないなと思いました。ただ、いろいろな情報発信は鮭川村でもうすでに行われており、これ以上どのように発信していけばもっと多くの人を引きつけることができるのかを考えていくことは難しいです。しかし、私なりに今できることを考えたところ、アピールする年齢層ごとに違った媒体を使用して情報発信を行ったり、違った観光地に焦点を当てて発信していったりすることなどが挙げられると思いました。私も、微力ですが様々な手法検討しながら周囲の友達や家族に鮭川村の魅力を発信していきこうと思います。また、より多くの方が鮭川村に魅力を感じ、訪れてくれることを祈っています。(Aさん)



2回目で活動する「米地区」は、環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されています。環境保全や生物多様性に興味がある人は参加してみてもいいのではないでしょうか。

●目的・概要

戸沢村角川地区は四方を山々に囲まれた地域です。周辺の里山には様々な資源があります。これらの資源を如何に有効に活用するかが課題であります。このフィールドで杉の間伐や広葉樹を使った原木への「きのこ植菌」などをおこないます。また、当地域は月山登拝口の一つになっています。山岳信仰に関わる名所・旧跡が残っています。「浄の滝」もその一つです。そこを目指してトレッキングを実施します。

もう一つのテーマであるSDGsは農業分野をTAGゲームにしてSDGsポイントを積み上げていくものです。事前に内容を記載した資料を提示します。



<訪問1回目 令和5年5月13日・14日>

◎活動内容

第1日目午前はそば打ち体験を行います。午後は山菜採りを行います。

第2日目午前は山菜料理作りを行います。

<訪問2回目 令和5年6月10日・11日>

◎活動内容

第1日目午前はSDGsゲームを行います。午後はキノコの菌植えを行います。

第2日目は浄の滝へのトレッキングを行います。

●講師

田舎体験塾つのかわの里事務局及び地元インストラクター

●受講定員（最小開講人数）

14人（10人）

●費用の目安 ※変更がある可能性があります。

訪問1回目 宿泊料 5,000円+活動費（昼食代等）5,000円
+交通費 2,340円（往復）

訪問2回目 宿泊料 5,000円+活動費（昼食代等）5,000円
+交通費 2,340円（往復）

合計 24,680円



昨年度戸沢村プログラム受講生の感想-----

戸沢村におけるフィールドラーニングは計4日間という短いものではあったが、戸沢村の風土や料理、人柄、暮らし方、関わり方などを学ぶ良い機会となった。

そんな戸沢村での体験は、ほとんどが自然とのかかわりを持った活動であった。山菜取りでは山の恵みをいただき、キノコの菌植えでは木の幹を利用し、杉の木の間伐・除伐作業では山の資源を守り、そして貫い、浄の滝トレッキングでは湧水を飲み、自然の壮大さに胸を打たれた。これらの活動を通して私が感じたことは「戸沢村は決して山形市のように人が多く住む街を目指した家開けではないということ」である。もちろん後継者不足に悩みある程度の人口増加を必要としてはいるわけだが、戸沢村が目指すのは「自然と共生し恵みを貰うまち」としてのポジションだ。(Kさん)

戸沢村の現在の魅力についてだが、「自然」と「食」であると感じた。「自然」については、山菜取りや浄の滝トレッキングが挙げられる。山菜の生えているような場所は、山の中でも道から外れたような奥まった場所にあることが多いので、普段、ハイキングで歩くような山道とは違った本当の自然の中に身を置くことができる。まるで宝探しをしているような気分だった。また、滝のトレッキングについては、非日常的環境を体験できることが大きな魅力だ。そもそもトレッキングとは山を楽しみながら歩くことを目的としている。ここが登山との大きな違いだ。実際にインストラクターの方にお聞きしたが、主に頂上を目指すことを目的としている登山とは違った、自然を全身で感じながら楽しむ目的で参加する人が多いそうだ。そしてなによりも、実際に浄の滝を目の当たりにした時は、言葉にならないほど感動したことをはっきりと覚えている。やはりそれは、重い荷物を背負って長時間歩き、目的地に無事たどり着いた時の達成感が与えてくれたのだろう。次に「食」についてだ。自分たて取った山菜を使った伝承料理や、蕎麦打ちの体験と共に味わった蕎麦、ブランド豚である戸澤豚など多くの食に触れることができた。特に山菜はほろ苦い野趣に富んだ風味で、決して野菜では味わえない独特の風味であった。その季節にしか味わえないという特別感も山菜の醍醐味の一つであった。(Sさん)

私が今回のフィールドワークで考えたことは、地域を活性化させるために必要なことです。今回行ってきた戸沢村では地域を活性化させようという工夫がたくさん見られました。しかし、戸沢村では人手が不足しているため、なかなか活性化させるのが難しいのだと感じました。なので、まず戸沢村がすべきことは、人口流出対策だと思います。戸沢村に行ったとき学校もあり子供がいないように見えなかったのですが、このような人たちが戸沢村に残りやすくなるようにすることが大事だと思います。そのために必要だと思ったことは、働き口を増やすことです。働き口があれば地元である戸沢村で働きたいと思う人は多くいると思います。また、働き口ができることで地域の経済もより回るようになるので一石二鳥です。(Aさん)



新しいメニューを取り入れました。
SDGs ゲームに是非挑戦してください。